

---

## 編集後記

---

Corona 禍（感染者増加・医療逼迫・Vaccine 接種・Olympic 問題、等）にあり、COVID-19 についてはすでに数多くの情報（本号でも多くの Corona 関連論文掲載）があふれていますので、ここではあえて触れないことに致します。平時に有事の対応を準備する必要性を痛切に感じていますが、夏季の今、気になった冬季の news があります。

昨冬は Corona 禍と同時に、大雪（異常気象）の被害も大きく報道されました。昨年末には日本海側を中心とした大雪の影響で、東北・信越地域的高速道路が通行止めとなり、IC 間に多くの車が足止めになった news は、未だ記憶に残っているところです。（本誌が出版される頃には遠い昔の話？）TV でこのような news に接するたびに「豪雪地帯や台風・水害に見舞われた地域の透析患者はどうされているのだろうか？」と心配する次第です。都会での透析医療しか知らない筆者としては、災害に見舞われた患者・対応する医療関係の staff 等に頭が下がる思いがします。大雪の心配のない今こそ、しっかりとした対策を準備しておきたいところです。

大雪でもう一つ、教育現場では知られた話であるそうですが、北国の授業で「氷が溶けると何になりますか？」という問いに対して、多くの生徒は「水になる」と答えた。一番前にいた生徒がポツリと「春になります。」と答えた話。その授業が理科なら×、国語なら○になりそうですが、筆者は両方とも○で良いと思っています。若者の digital 思考にどうにか対応し、analogue 思考の筆者としては、一般的な思考に囚われないこの話を常に念頭に入れておくべきものと思っています。

本号も数多くの興味深い論文（医療安全対策 5 編・臨床と研究 7 編、等）を掲載することができました。執筆者の先生方には深謝致します。会員の先生方には是非一読し、明日の臨床現場に役立っていただければ幸いです。

Vaccine 接種が行き渡り、Corona 禍が早期に収束することを強く希望致します。

会誌編集委員長 久保和雄